第 5 回北区観光振興プラン策定検討会　議事概要

日　時	平成 27 年 2 月 13 日（金）18:30～20:30
場　所	北とぴあ 9 階 902 会議室
出席者	検討会委員：13 名（2 名欠席）、（事務局）7 名、傍聴：2 名

委員長あいさつ

会議の様子

会議の様子

議事次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認（資料 1）
4. 前回検討会のふりかえり（資料 2）
5. 議題
   (1) 北区観光振興プラン(案)パブリックコメントの結果について（資料 3、4）
   (2) 東京 23 区の観光協会等の実態について（資料 5）
6. その他

配布資料

議事次第、配席図、観光振興プラン策定検討会委員名簿
資　料 1：観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認
資　料 2：第 4 回北区観光振興プラン策定検討会議事要旨（案）
資　料 3：パブリックコメントの結果について
資　料 4：北区観光振興プラン（案）（パブリックコメント反映版）
資　料 5：東京 23 区の観光協会等の実態調査結果

主な議論内容

- パブリックコメントの対応については、基本的には事務局案のもので回答することで承認を得た。
- ただし、プロジェクト 2 の鐵分の漢字に関して、旧字は読み難いので新字を使用すべきという指摘については、ここまでの検討経緯を尊重し、旧字体にルビをふって対応するということになった。その他、詳細の対応については、委員長および副委員長に一任することとなった。
- 東京 23 区の観光協会等の実態調査結果の報告について、北区観光の中核的推進組織の立ち上げに向けた、組織の資金源やあり方に関する意見交換を行った。意見交換結果は、別途、（仮称）北区観光協会設立に向けた観光推進体制のあり方に関する検討報告書にまとめることとなった。

1. 開会

2. 委員長挨拶

・ 第 5 回ということで、予定では最終回となる検討会である。みなさまのご協力をいただき、ようやく観光振興プランの素案がまとまり、パブリックコメントにかけることができた。本日は、区民の方に見ていただいたパブリックコメントの結果とその後の庁内検討会の検討結果をご報告いただく。また、前回 11 月の検討会で持ち越しとなった、観光協会についての調査結果をご報告いただく。前回の検討会で一番議論になったところは、プランの目標をどう定めるのか、また、定める必要があるのかということであった。結果として目標については、方向性をもって目標に代えることとなった。また、リーディングプロジェクトについては、先導するリーディングプロジェクトという文言を修正し、優先すべきプロジェクト順に順番を変えた。それ以外は私と副委員長で最終的な確認をして、パブリックコメントにかけた。本日の議題のひとつめは、パブリックコメントでいただいた意見とプラン本編への意見の反映案について、ふたつめは、観光協会の実態調査についてである。今回もご議論とご承認にご協力いただければと思う。

3. 観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認

・ 事務局より、資料 1「観光振興プランの策定スケジュールと体制の確認」の説明。
・ 今後の予定としては、本日の検討会の結果を踏まえで今後策定ということになるが、良いか。
  ➢ （一同了承）

4. 前回検討会のふりかえり

・ 事務局より、資料 2「第 4 回北区観光振興プラン策定検討会議事要旨（案)」、資料 4「北区観光振興プラン（案）(パブリックコメント反映版)」の説明。
・ 前回のふりかえりと前回検討会からパブリックコメントまでの修正点について説明いただいた。記録については、どのようになっているか。
  ➢ 前回検討会の議事要旨については、パブリックコメント前に皆様に配布し、ご確認いただいているため、既にホームページに掲載されている。(事務局)

5. 議題

(1) 北区観光振興プラン(案)パブリックコメントの結果について

・ 事務局より、資料 3「パブリックコメントの結果について」、資料 4「北区観光振興プラン（案）(パブリックコメント反映版)」について説明。

① プロジェクト 2「鐵分増量プロジェクト」の漢字について

・ 全 44 件のご指摘をいただいたということであるが、このパブリックコメント結果の内容は､既に 2 月 10 日に行われた庁内検討会の検討結果を反映しているということで良いか。
  ➢ こちらは、庁内検討会の検討結果を反映する前の段階である。庁内検討会の意見では、プロジェクト 2 の鐵分の漢字について、「旧字体の方が話題性がある」、「新字だと栄養素を

連想させてしまう」、「分かり難いのであればルビをふるような方法もインパクトがあっていいのではないか」という意見があった。庁内検討会には、検討会の議論を踏まえてプランに反映する旨を伝えている。他は、文言の調整などの指摘であり、特になかった。（事務局）

・ 正しい認識ではないが、新字の鉄は金を失うと書くので、鉄道会社は旧字体を使うことが多い。新字を使うと金属の鉄になるが、鉄道ファン向けに鐵分という言葉を使っている認識は必要になると思う。庁内でも、意見が分かれていたということであるので、忌憚のないご意見をいただければと思う。

・ 田端に支社のある鉄道会社の鉄の漢字は、右側のつくりの部分が「失」という字ではなく、「矢」という字になっており、正式にはない漢字を使っている。そのようなことを知っている人は少ないので、それを広めたら面白いと思っていた。どちらでもいいが、その字を使ってもいいのではないか。

➢ 第三の意見が出てきた。

・ 北区には、鋼鉄の会社があるが、そこの会社名も旧字体を使っている。

➢ 鉄道ファンを呼ぼうとすると旧字の方がピンとくる。私は旧字を使用してはどうかと思う。

・ 漢字は旧字を使い、ルビの部分を新字にしてはどうか。漢字でルビをふる。

➢ こだわりの問題になってくるので難しい。

・ これは観光振興プランであるので、プロジェクト名がパンフレットに書かれることとは別の問題である。座長をはじめとした検討会の想いを込めるという意味では、旧字で良いのではないかと思う。

➢ 旧字の方が想いは伝わると思う。

・ 昨日ラジオの番組で、〇〇鉄という企画をやっていた。撮り鉄やパンフレット鉄、切符鉄などが出てきた。一方通行でもメッセージが伝わるほうが良いと思う。

・ 普通は、鉄女も撮り鉄も新字を使っている。

➢ プロジェクト名については、もともとワークショップのみなさんで議論して積み重ねたものなので旧字の方が良い。それ以外のところは新字でも良いのではないか。

➢ 一般人でなく、鉄道マニアを対象とし、旧字の方が良いということならば了解した。

・ ワークショップの会議で鉄道の話はかなり出ていたので、出来れば、委員会として旧字で出したい。良いか。

➢ （一同了承）

・ では、旧字体を使用することにする。ルビはどうするか。（事務局）

➢ ルビはふっておいたほうが良い。

・ ルビはカタカナか、ひらがなか。

・ ルビはひらがなでもカタカナでも、事務局のセンスにお任せする。

② その他コメントについて

・ パブリックコメントは、的を射ている面白い意見がたくさんある。38 番の「プロジェクト 2 について、「企画基本計画 2015（案）」に記載されている（仮称）旧北王子線跡地遊

歩道の活用については、舗装せずにレールと枕木を残し、トロッコ等も走行できる空間として活用していただきたい」という意見は、面白い意見だと思う。区の考え方では、「鉄道の面影を残した遊歩道として設計等の検討を進めて参ります」と幅を持たせて答えているが、本当に観光ということを考えるのであれば、実際に面影を残せるように考えていただきたい。赤羽の公園のようにただの舗装になってしまうのではないかと危惧している。観光のプロジェクトとしては、ぜひ面影を残したものにしてもらいたい。

・ 観光地ならば、歩きやすくして、身体の不自由な人も利用できるようにした方が良い。

➢ 逆である。身体の不自由な人用の道は別に整備すれば良い。観光資源にするには、特徴づけが必要である。線路跡を平らにしてしまっては、観光資源にならない。

・ 面影を残すというところのセンスの問題だと思う。面影も何も残らないと人も誰も来ない場所になる。昔の線路や製鉄所などを残しているところにみんなが写真を撮りにいくように、残していれば資産になる。

・ バリアフリーはすごく大事だが、長い階段が有名なお寺では、階段の辛さも含めて観光資源であるため、別の道を整備しても階段はなくさない。旧北王子線跡を観光資源にするならば、少しでも線路、枕木を残しながら整備しないと観光資源にはならない。

・ 旧北王子線跡は場所柄、ただの遊歩道にしても誰も来ないと思う。面影を残したものにすると観光の目玉になる。

・ 旧北王子線跡を観光資源として発信していくということを明確に言わないと、別の部署によってかけ離れたものができてしまう可能性があるということを言っている。

・ 旧北王子線跡を観光地として扱うのであれば、飛鳥山公園にあるデゴイチは場にそぐわないという意見もあるので、それをもってくれば良いのではないか。

・ 観光で大事なのは必然性である。その場所に不必要なものがあれば違和感が出る。実際に実行するときに、十分議論いただければ良い。観光で売ろうとしたときには、場合によってはユニバーサルでないような状況になることもあるので、どちらを優先するかは、区の総合的な判断になる。一番究極のユニバーサルは、心のバリアフリーであるが、それでは極端な話になる。整備の際に、地域の記憶や真実の姿を心がけることを関係部署にお伝えいただきたいというご意見だったと思う。他に意見ないか。良いか。

➢ （一同了承）

・ パブリックコメントの結果については、最終的には委員長と副委員長にお任せいただき、回答していただければと思う。ここまでの議論では、プロジェクト 2 の鐵分の漢字については旧字体を使用してルビをふるということになり、旧北王子線跡の整備については、面影を残した整備をしてもらいたいことを担当部署に伝えてもらいたいというご意見があった。また、パブリックコメント後に、プランの末尾に検討体制、設置要綱ニューズレターを追加している。これをもって最終案とさせていただいて良いか。（大下委員長）

➢ （一同了承）

(2) 東京 23 区の観光協会等の実態について

・ 事務局より、資料 5「東京 23 区観光協会の実態調査結果」について説明。

① 調査結果について

・ 今回の振興プランには具体的には書けないと思うが、今年度は、別途、観光協会についての報告書をまとめることになっているので、今回の検討会でのご意見はそちらに明記できる。忌憚のないご意見をいただきたい。
・ それぞれの観光協会の総額予算と人件費を除いた事業に使われている金額の割合について、資料があれば教えていただきたい。

➢ （委員長、事務局で分かる範囲の数値を回答）

② 観光協会の形態について

・ 大田観光協会が任意団体から法人化をした理由は委託である。委託がある程度の額になると、任意団体に随意契約を出すことは難しい等の理由から、一般社団法人になった。他も大体同じだと思う。大田観光協会の場合は、パンフレット作成などの業務委託を受けており、行政では出せない、観光客目線の差別化した情報を発信している。出版物については、単にアウトソーシングという意味だけでなく、情報にメリハリをつけられるので、観光協会に一任して作成してもらう方が現実的である。また、しながわ観光協会では、観光アクションプランを受託して作成した例があり、様々な事業の形態があると思う。
・ 各地域で観光協会の会員の構成が違うと思う。墨田区観光協会では、儲かる人が集まって入っているように感じるし、大田区はものづくり関係の人がボランティアで入っているように感じる。北区の場合を考えると、商売している人など観光で儲かる人に観光協会に加入して儲けてもらうというやり方がいいと思うが、区の思惑としては、定住化人口増加だと思う。また、北産業連合会は工場が集まっている団体であるので、地元が良くなればボランティアとして参加したいと思う。北区の場合、観光協会に参加する人の動機は、それぞれいろいろな動機になると思うので、そこが心配である。

➢ いわゆる観光地とは違うので、様々な人がいると思う。誰が声をかけるかが重要になる。

・ 発起人が一番お金も労力も出さなくてはいけないと思う。発起人なしで設立しなければ、発起人に大きな負担がかかると思う。
・ 北区で言う観光協会は、この分類の「観光事業推進型」、「商工業連携型」、「観光まちづくり推進型」、「行政主導型」でいうと、どのタイプにあたるのか。

➢ 少なくとも代表的な観光地で組織される観光事業推進型ではない。行政主導でも行いたくないということだと思うので、商工連携型か観光まちづくり型のどちらかだと思う。今回ヒアリング調査に行っているのも大田区、墨田区、中野区の観光協会であるので、目指すとことはこのあたりかと思う。

・ タイプが先に決まると自ずとメンバーが決まると思う。仮に、観光まちづくり推進型であるならば、利益でなく、まちを良くしたいという人が集まると思う。発起人が誰になるかによると思う。

➢ 音頭をとる人がいたのが商工連携型の大きな特徴である。観光まちづくり型にもそういう存在はいるが、組織に属さないでまちづくりのリーダー的な人が集まったかたちだと思う。まちづくり活動を行っている人の求心力が強くなると、行政との連携が弱くなる場合もある。観光まちづくり推進型の場合、区からの委託事業による予算もなく、ボランティアで活動するとなるとパワーとしては限界もあり、得てして、プランの推進が難しくなるとい

うケースが推察される。

- 資金が一番大事であるから、赤羽馬鹿祭りの実行委員会、王子狐の行列、飛鳥山薪能などを行っている人など、ばらばらで行われているお祭りとかボランティアでやっている人を観光協会でひとつにまとめてやるのが良いと思う。

➢ もし既存の祭りなどを行っている実行委員会を束ねるならば、観光まちづくり推進型で進めることになると思うが、それでは寄り集まりになるので、組織としての方向性は出せない。そうすると、どちらかというと商工業連携型が適していると思う。

- 誰のための観光協会かなということが一番大事であると思う。

➢ その通りであり、それは組織の定款にあたる部分であるので、これから議論していくことだと思う。どの観光協会のタイプを選ぶのかというところから入るのもひとつの方法であるが、議論を積み重ねた結果、あるタイプに落ち着くというのもひとつである。

- 何のための観光協会かということは、このプランに書いてある。その推進役としての観光協会が必要になっているが、観光協会というのは、地域のマーケティングをして資源を発掘していく組織であるべきで、個別のイベントを運営するよりも、行政組織でできない情報発信を優先していくべきだと思う。そのためには、財政基盤が必要になる。

③ 観光協会の資金について

- プランの中で目標としたものをどこまで達成するかは、予算的な裏付が伴わなければ、できる範囲は小さくなる。この検討会以降の議論にはなると思うが、区からの受託がどういうものになっていくべきなのかは、意識する必要がある。商工会議所で区長との懇談会を行ったときに、観光協会を設立したときには、北とぴあの運営や北区の広報誌の作成など、区から観光協会に委託をしてもらう内容について、考えていく必要があるという話を率直に申し上げた。指定管理については、極端なことをいうと施設そのものの管理を受ければ、大きな予算がとれるし、一部分の管理ということももちろんある。

➢ 指定管理では、程度の問題はあるが、そういうことがないと、観光協会で常駐の人を雇うということは成り立たない。また、出版物等の委託を出すときには、印刷費のみで委託する場合が多いが、企画・編集・デザイン費等を含めて委託しなければ、受託側は人材を確保してやっていけない。

- 北区体育協会では、事務局長は区からの出向というかたちで、給料は区から出ている。その他の職員についても、体育協会から直接給料を払っている人もいるが、そうでない人もおり、間接的に区が補助しているかたちである。いろんなやり方があると思うが、収入と支出、人件費率をどう捉えるかが大事だと思う。観光協会を運営する以上、会費や寄付では成り立たず、受託事業で収入を得るしかない。ビジネスであるという認識をみなさんで共有してやっていきたい。

- 観光協会を立ち上げるにあたって、どのような形態で運営するにしても、資金の確保が重要になる。ビジネスというかたちで運営しなければ、人件費はかかるし、資金がなければ何をするにしても良いものが作れない。観光協会自体が鉄分不足、金欠状態になってしまうのが目にみえているようでは、うまくいかない。まずは、収入が上がる方法を確保しながら、PR などをしていくなど、方向性が定まらないと難しいと思う。

➢ 先立つものと収入広告を想定してやらないといけないという話だと思う。

・ 収入と支出のバランスが重要である。そのためには、区にどのくらいのスパンで支援してくれるのかを明確にしてもらう必要がある。補助金に頼って自立できない組織ではいけないと思う。

➢ 支援期間については、すぐに答えは出ないと思う。補助金は組織が自立しようと思わなくなるので良くないが、委託事業として必要な金額は考えておく必要がある。

・ 観光協会がきちんと組織化されれば、毎年協会としての事業計画を作ることになる。資金源については、些細ではあるが、会費収入がひとつ、区からの委託事業がひとつ、他に、独自の事業が考えられる。独自の事業については、収入を得られるような具体的な事業計画を立てなければ、いつまで経っても区から委託業務をもらいつづける可能性がある。

・ 観光協会の事業として考えられるのは、ひとつめは、区からの委託業務である。区でパンフレット作成する場合はかたいものができるが、観光協会に任せれば、いいデザイナーを入れて面白いものができる。ふたつめは、飛鳥山や石神井川の河川敷などの公共施設を観光協会が利用できるような仕組みをつくると良い。上野公園のようにいろいろなイベントを実施し、収入を得られるようになると良い。もうひとつは、新規のマーケットに対しての事業で、婚活イベントなどを実施することで、参加者からお金をとるという方法が考えられる。

➢ 収入源として、会費収入と委託事業による収入、独自事業による収入があり、独自事業にもいくつかやり方があるということだと思う。

④ 観光協会の立ち上げと役割について

・ 他区の現状を聞いていると、いざ自分たちが観光協会を組織する段階となると厳しいと感じる。

➢ 組織した後は、なかなか管理が難しくなるが、組織するところまでは、行政が管理していることが多い。墨田区も大田区も観光部署と観光協会とは、表裏一体でやっている。策定したプランを推進していくには、観光協会だけでは無理があるので、協会を組織したからといって、観光をすべて任せてしまうという話ではないと思う。

・ 最初は、協会と行政が連携して半官半民のようなかたちで事業計画を作り、進めていくのが良いと思う。

・ 立ち上げや一定の軌道に乗るまでは、財政的な保障を区は責任をもってやるべきだと思っている。協会は、区にはできないことをやってみせて独自に収益を確保できるようにしていけるのがよい。

・ 大田区と墨田区について、区と観光協会が表裏一体というのがどういう感じなのか、イメージがわかない。

➢ 例えば、区が観光協会に委託したイベントであっても、区の職員が準備などを手伝ったり、サポートをしているということである。逆に区のイベントについても観光協会に手伝ってもらうこともある。人を出すという話で、委託したから関係ないということではなく、うまく動いているところはそういうふうにやっている。それは、組織規模が大きくなっても

同じである。

・ 現時点で、北区では既存の組織がいろいろな活動を行っているが、観光協会が立ち上がったときの役割が見えない。団体同士や団体と行政とのパイプ役になるなど、期待を持てるところと、簡単にはいかないと思うところがある。組織を存続させていくということに関しては、行政との関わりは必要であるが、どこまで自立性をもって、独自の活動を行っていくかを考えながら立ち上げを行っていかなければならないと思う。

⑤ その他

・ 観光協会の看板はすぐかけられるが、中身を慎重に検討していかなければ、うまく成り立っていかないと感じた。

・ 観光協会は、1 行政 1 地域かと思っていたが、そうでないことが分かった。また、どう事業を運営して観光協会を維持していくかを考えることが重要であると分かった。観光協会の色について、4 つのタイプの中でどの色を濃くするのか、中心になる人によって、ステップも、会員の色も決まってくると思う。色を明示していく必要があると感じた。

・ 観光協会などの団体がないのが世田谷区、杉並区、荒川区、江戸川区であるが、それらを考えると北区は結構資源があると感じた。23 区の観光協会を調べてもらったのは有意義であった。きちんとした法人格があるところは、ディスクロージャーがあるので、今後もそれぞれの観光協会の直面している問題点などを調べてもらって、任意団体でいくのか法人格でいくのかの方向性を決めていけばよいと思う。

➢ 基本的には、どの観光協会も収入の確保、人の確保が共通の課題である。

・ 今日方向性を決めるわけではないが、みなさんの議論をまとめると、観光協会の主な事業としては、1 つめは、観光資源の調査研究、情報収集提供および振興に関わるような事業、２つめは、まちの特性を活かした新しい観光資源の開発、3 つめは、まちの中に魅力を演出するような事業、その一環として拠点となるような場所の運営、4 つめは、商店街や個々の店などに関係する観光による産業振興に関わる事業、5 つめは、国際観光、国際文化交流、国際文化観光の推進が挙げられたと思う。この 5 つくらいを中核的組織がメインに担い、収入源としては、会員収入、委託事業とそれ以外の独自事業をどう実施していくかということを考えながら、自立の道があるのかということを、これからも引き続き検討していく必要があるということだったと思う。本日のご意見は、観光協会についての報告書の中に盛り込んでいただければと思う。

・ 本日議題の大きなものは、パブリックコメントの結果で、プロジェクト 2 の鐵分の漢字については旧字体を使用してルビをふるということになり、これを最終的な手続きにまわしていただくことがひとつである。観光協会については、委員のみなさんにご意見をいただいたので、それを参考に今後の組織に向けての計画を立てていただくということになった。

➢ （一同了承）

(3) 総括

・ ひとつだけ感想を申し上げると、この手の検討会では、往々にして事務局が用意したもの

をお認めいただくパターンが多いが、前回の検討会では、最終目標をどうするかという議論になり、最後は目標は置いておきましょうという話になり、このようにひやひやしながら参加した検討会ははじめてである。そういう意味で、率直にみなさんからご意見をいただいて、このプランにまとまった。ありがとうございます。

・ 8月に第1回検討会を開催したが、その前後にハードなワークショップを開催し、第4回検討会までみなさんに貴重な時間をいただいた。その後、パブリックコメントをはさみ、本日第5回検討会で、無事成果を上げることができた。これも委員のみなさまのご協力のおかげである。ありがとうございました。この後は手続きになるので、検討委員会そのもののお役目はこれで終わりということになる。各委員のみなさまには、このあと引き続き中核的推進組織の組成に向けて、絵に描いた餅で終わらないように、支援をしていただければと思う。

6. その他

・ 事務局より、今後の予定の案内、閉会。

以上